



千葉労働動向

12・2 千葉支社 DL問題で交渉

動労千葉は、一月二日、千葉支社において、JR貨物との受委託解消に伴うDL運転業務の拡大に關係して発生している諸問題に關して団体交渉を行った。

DL運転業務については、今年度から開始され、すでに半年以上が経過しているにもかかわらず、なんら問題は解決していない。

こうした情況から動労千葉は、DL運転業務の諸問題の解決に向けて改めて申し入れを行ったものである。(日刊四八七九号参照)

団交の概要は以下のとおり。

指導・教育体制を確立しろ!

組合 DL運転業務については、業務開始からすでに半年以上経っているにも関わらず運転や検修業務の指導、教育体制について何ら具体的な展望が明らかにされていない。

会社 指導、教育体制については、車務課員と木更津支区から各一名を大宮に出向かせ、一カ月間教育を行なった。

千葉運転区の指導については、運転士が行なっている机上訓練や現車訓練に参加し、技術力向上に努力している。技術力の継承については、技術力を付けるため絶対数を増やすようにしていきたい。

会社は指導力や技術力の前提条件が無いことを認めているが、今後どのようにしようとしているのか全く分からな

い。碎石やレール輸送などの作業内容をキチンと把握しDL業務に責任を持つ助役や、DLのことを把握できる指令をつくるのが会社として求められているのではないか。

指導などは、DLのことが何も分からないから列車にも乗ってこないのが現状だ。

そもそも、点呼でDL業務の行路を把握している助役がいるのか。運転業務を把握して運転士から出された問題に答えられる助役をつくるべきだ。

内燃車免許を持っている助役については、現車訓練の立合や教育を行なっている。作業の内容については、現地の線見などは行なうことはできるが、個々全てを把握す

ることは難しいと思うが、徒歩見学やビデオなどで対応したい。

指導助役が運転士指導の責任者となり、必要によりDL経験管理者が指導に助言できるようにしていきたい。

千葉運転区については、DL経験者が線見訓練を行なっており、銚子運転区には必要な指示は行なっている。

絶対数を増やす?

技術力向上のために絶対数をふやすというが、どのようにするのか。

DL業務の行路を持っていないところでは集中的に訓練を行ないたい。具体的には来年度実施したい。人数については、多くはできないが管理者・社員で前回同様程度と考えている。

指令についてはどうするか。

運転士のフォロー訓練や他箇所での訓練に立合い、教育・指導できるようにしたい。五名の運用指令が運転士や車両の操作をおこなうが、この五名について集中的に立ち合わせるようにしたい。

対応があまりにも遅すぎる。今は、国鉄時代の技術力でまかなっているだけで、今本場にDL運転業務を指導できる体制をつくらなければ、間に合わないということだ。

指導員を配置しろ!

DL業務担当区に内燃車免許保有者を配置することは、教育以前の問題であり、標準数が増えてもしょうがない問題ではないのか。

指導員については、属人も含め具体的に検討したい。

助役でも指導できればかまわないが、できるのか。

免許を持っている者と照らし合わせて検討したい。

ベテラン運転士を指導に指定し、将来的に体制を固めるようにすべきだ。

指導体制については、暫定的だが助役や指導の体制強化を行い、少しづつではあるが技術力を高めていきたい。

また、本社の教育計画が決まりしだい検討したい。

手当の改善を!

DL業務の場合、工臨や入換作業が主体であり、諸手当の大幅な減少となることから矛盾の解消に向け本社の要請すること。

交番と予備では三万円位の差になり、さらに予備とDLでさらに二万円程度の差が生じている。

本社には要請している。制度上の矛盾だと感じている。業務遂行上、DL業務を担当している運転士にのみ負担

をかけ、指導・教育体制もできていない中で、ボーナス等へ反映させる要素になるのではないか。

業績への貢献度の要素にはなるが、手当とは別と考えてもらいたい。

実態として手取りが少なくなっていることは認識しており、本社にも上申している。

貨物を参考にし、仕業加給と多量運転で要求している

ので、今後も制度実現に向け、要請してもらいたい。

波動業務平準化を!

DL業務を含む波動業務について、各区に波動要員を配置し、平準化を図るべきだ。

内燃車免許を有している運転士については、千葉運転区はすでに終了し、これ以上増える要素がないので、外周区でのフォロー訓練も含め検討している。次年度しかチャンスがないと考えており、具体的には決まり次第提案する。

指導・教育体制と一体の関係にあることを改めて認識すべきだ。

外周区に波動業務を行なわせる場合、指導体制をどうするのか問題になることは認識しており、有資格者の有効活用も含めて検討したい。